

令和2年度 第1回若い教師と共に学び合う自主セミナー 実施報告

【実施日時・場所】 令和2年9月26日（土）13:00~17:00 @福島大学附属小学校

参加者17人（小学校14人，大学3人）

【テーマ】 改めて考えたい！授業づくりにとって大切なこと

日々の業務に追われ、じっくり授業を考える機会が少なかったり、新型コロナウイルスの影響で今までと同じように授業ができない現状に悩んでいたりする先生方と一緒に、今だからこそ授業づくりに本当に大切なことは何なのかについて考えていきました。

【セミナーの様子】

○ 「2学期の単元構想をしよう」（演習）

今回のテーマが「授業づくり」であるため、参観していただいた先生方の理科担当学年でグループを構成し、2学期に行う予定の授業（単元）を考えていきました。3年生は「音の性質」5年生は「物のとけ方」6年生は「てこの規則性」について構想しました。どのグループもまずはその単元で子どもたちに育みたい資質・能力が何かについて話し合いをしていきました。そのうえで「どのような教材を使うことで子どもが問題を見いだしたり、結果を可視化したりすることができるか」や「どのような子どもの姿が想定されるか」「子どもの概念形成をしていくには、どのような単元の展開が望ましいか」などを考えました。



○ 「2学期の単元構想」を検討しよう（協議）



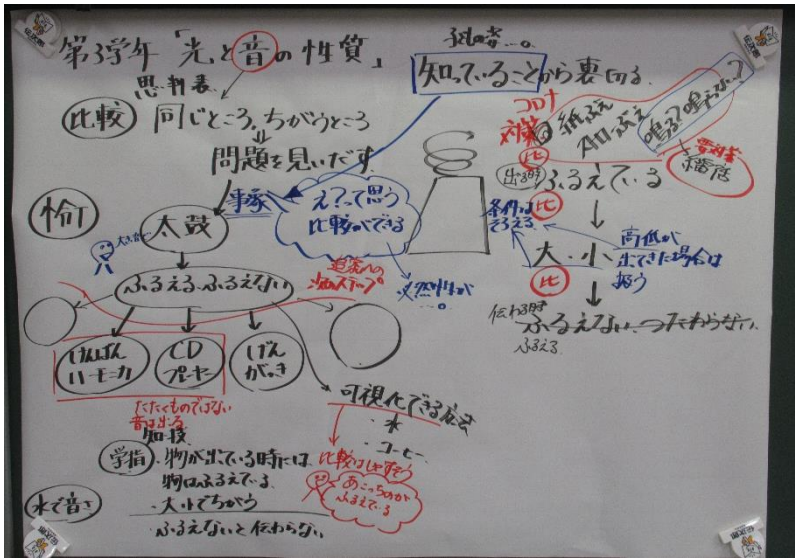
協議では、各学年で考えた単元構想を発表し合い、協議を深めました。コロナウイルスの影響を加味したうえで子どもたちにどのような教材提示をしていくのかを提案したり、子どもの思いを大切に探究をしていくための教師の構えを考えたり、「知識・技能」重視の単元構想と「生活に学びを生かすこと」重視の単元構想を提案したりと、様々な視点での発表がありました。どのグループの発表からも理科の授業づくりをするうえで大切な要素が散りばめられていたように感じます。

○ まとめ

今回、授業づくりを考えていながら「目の前の子どもたちを単元終了時にどんな姿にしていきたいか」「目の前の子どもならどう働きかけていくとよいか」という視点をもって先生方が授業をつくっているのだということが改めて分かりました。次回の授業づくりセミナーでは、今回考えた授業を実際に実践し、そこからどんな子どもの姿を見取り、それを単元展開にどう生かしていったかを共有していきます。

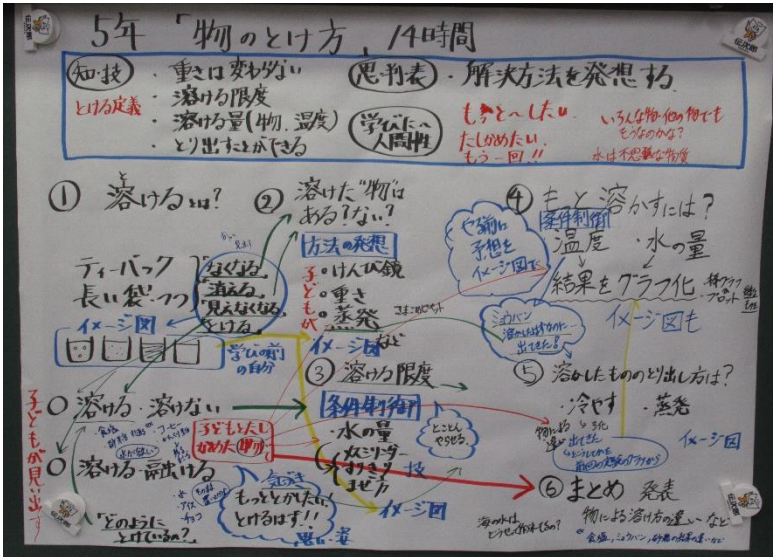
～ 資料 ～

各グループの授業作り構想の記録です。各グループの視点をぜひご覧ください。



3年「光と音の性質」(音の性質)
 子どもたちが比較をして問題を見いだすことができるように、共通体験の遊びから単元の導入を考えていますね。音の性質を学んだ子どもがどのようなフィルターで生活を見るようになるのか見取っていきたいですね。

5年「物のとけ方」
 子どもたちの学びに向かう力・人間性を育てていくために、教師がどのような構えで子どもの思いを受け止めるのかも考えていますね。
 砂糖を溶かした子どもがどのような発見をするのか楽しみです。



6年「てこの規則性」
 教師の「教える」目線と子どもの「学ぶ」目線のそれぞれで単元構想をしていますね。目の前の子どもたちが日常生活の中でこの便利さやてこの巧みさに気付くことができるようになったのかを次回ぜひ報告してください。

